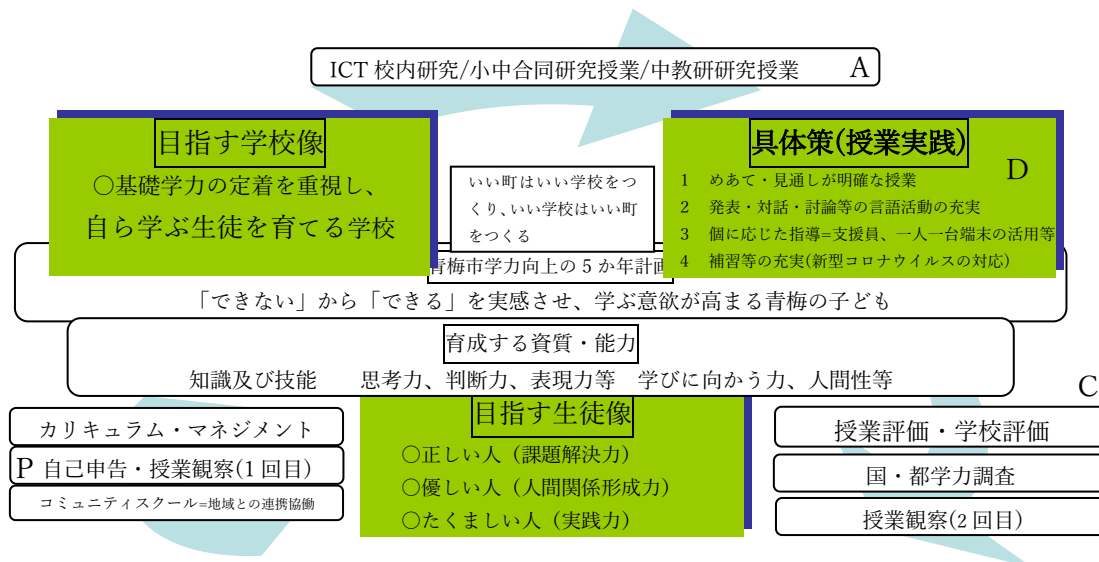


# 令和4年度 学力向上推進プラン 授業改善に向けて

令和4年5月6日

青梅市立第六中学校校長 吉田 稔

## ◇学力向上に向けたPDCAのイメージ



## ◇学力向上に向けた分析と指針

- 国学力・学習状況調査結果(3年対象)の成果と課題…数学「見方や考え方」=全国比+5.3、「数学的な技能」=全国比プラス9.8ポイントの成果が見られる。数学の関心・意欲について「いいえ」が25%であり、学力は高いのに学習意欲が高いとは限らないという、これまでにあまり例のない結果が見られた。
- 都学力向上のための調査結果(全学年対象)の成果と課題…「授業がわかる」「どちらかといえばわかる」の項目が都の平均を超えた教科が全学年を通して3教科あり、授業改善の効果が見られる。主体的に学習に取り組む態度の観点についてさらに改善を進め、信頼度を高めていく。
- 前年度の全国学力調査結果も指導事項における思考力・判断力・表現力等のポイントがマイナスであった。本校の学力調査の分析結果はここ数年大きく変わらない。本年も「青梅市学力向上5か年計画」の成果目標「考えを深めたり、広げたりできた」75%以上を目指して改善に取り組む。改善の指針は、次の3点である。

### 1 授業と評価の一体化に向けて

- (1) 教師は生徒に対して、評価は目標に準拠した評価であることと、評価規準に基づいた評価であること、単元のはじめや授業での評価規準を説明することが重要である。一時間の授業の「めあて」を生徒に明示して何を学ぶか、何ができるようになるのか生徒が自ら考えて学べる力を身に付けられるように支援する。
- (2) 教師は生徒に評価規準の3点目「主体的な学習に取り組む態度」について授業で「粘り強さ」と「学習の調整」のための「学習のポイント(活動の手立て)」を単元を絞ってピンポイントかつ具体的に示すようにする。「評価規準」という言葉によ

る説明はなくても今までの授業通り「学習のポイント(活動の手立て)」を示すことで、生徒が目標を達成しやすいような支援につながり、教師も評価規準を生徒と共有できる。昨年度に続けて主体的な学習に取り組む態度の観点を中心に授業改善を進める。

## 2 個別最適な学習づくりの支援・指導（一人一台端末の活用1）

発達の課題があるからか、怠学によるものか、生徒の実態を見極めることが難しい場合がある。このような生徒は今後増加していく傾向にある。担任・教科間・特別支援教室専門員・特別支援コーディネーター等が連携し、その生徒の情報交換を密に行ってなるべく同じ対応をする。例えば板書の写し方を段階的に増やす指導をしたり、放課後の補習を活用して、視写したりするなど学習の実態を見極め、場合によりタブレットも活用するなどして個別最適な学習づくりの支援・指導をする。

## 3 協働的な学習の推進（一人一台端末の活用2）

学習の理解を深める手段として活用する。教科・単元の特性にもよるが、教科書のQRコードの読み取りや例えば Google Jamboard はその優れた操作性からホワイトボード以上の学習効果が期待されているので話し合い活動の充実による対話的な学びの深化につなげていく。昨年度はすでに各教科で Google classroom が開設されているのでこれらの取組は難しくないと考える。

### ◇具体的な学力向上計画

#### 1 授業と評価の一体化に向けて

- (1) 自己申告・授業観察の活用…新しい評価への具体的な取組・タブレットの活用について記述させる。個別最適な学習と協働的な学習の充実に向けたプランを聞く。
- (2) 学力向上推進プランの活用…5月に授業改善の方向性と具体策をプランで提示する。
- (3) 学力調査結果・授業評価の分析…国・都の単学力調査結果、生徒による授業アンケート、保護者による学校評価(年2回)、コミュニティー・スクール委員による学校評価(年1回)結果を全教員で回覧し、成果と課題の共通理解をもとに授業改善へつなげる。
- (4) 小中合同校内研修会の活用…評価方法の工夫、評価内容の精選等について研修を行う。
- (5) 中教研研究授業等の活用…評価規準「主体的に学習に取り組む態度」についてより信頼度の高い評価を求めて各教科で研修を深める。
- (6) 指導室訪問 6/29(水)での研究授業の活用…タブレットを用いた授業を行い、個別最適な学習、協働的な学習の支援に向けての授業改善を学校が一体となって進める雰囲気醸成する。

#### 2 個別最適な学習の指導の充実に向けたその他の方策

支援員による学習支援を行い、支援委員会を活用して生徒理解を深める。また、定期試験前のステップアップクラス、3年対象のスタディアシストにより個に応じた指導の充実を図る。

### ◇新型コロナウイルス感染拡大下における学力向上策

状況に応じて一人一台の端末(タブレット)を使用させて Google classroom により課題の提示・提出を行う。Wi-fi環境が整っていない家庭については別途に対応を検討する。